建築作品部門

建築物の保存問題全般

千葉県・市原市

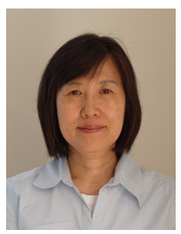
140 年に渡り住み継ぐ家

変えたもの / 変えないもの / 復活させたもの

明治 3 年（1870 年）に千葉県市原市の郊外に建てられた民家。140 年に渡り一族が住み続け、その間、幾度かの大規模改修、修繕を経て、社会情勢、生活様式、価値観が激変した時代を乗り越えた住まい。

■ 明治　3 年（1870 年）竣工
■ 大正 12 年（1923 年）関東大震災による被災。大規模修繕
■ 昭和 39 年（1964 年）生活様式の変化に伴い大規模改修
茅葺きから瓦屋根へ（小屋組変更）
離れ家を増築。
■ 昭和 60 年（1985 年）改修工事

その後、建替えか大規模改修により住み継ぐかの検討の結果、現代の耐震性、温熱環境・住環境の改善、次世代への伝承などを視野に入れ、
■ 平成 16 年（2004 年）大規模改修・修繕・増築工事を実施



応募代表者

JIA 日本建築家協会 会員

郡山　貞子

[有] 郡山建築設計事務所
〒 154-0021 東京都世田谷区豪徳寺 2-12-14
Phone 03-3420-2536
mail@kohriyama.co.jp
http://www.kohriyama.co.jp

建物概要と経緯

■ 明治 3 年（1870 年）竣工
房総の民家の特徴を有していた。
- 当初の建物は、桁行 8 間 4 尺（15.7m）、梁間 5 間（9m）平屋、寄棟造、茅葺。平入り。
- 15 畳の座敷を中心に、5 室構成。
東側に縁側、西側に土間。房総の民家の特徴の南側に瓦葺の下屋を差し 掛ける。

■ 大正 12 年（1923 年）：**築 53 年**
関東大震災で被災。曳家等を経て修復された。

■ 昭和 39 年（1964 年）：**築 94 年**
生活様式の変化に伴い大規模改修された。
- 土間を廃止し板張りの床へ。一部を「応接間」へ改修。
- 伝統的な「式台玄関」は「サンルーム」へと変更。
- 新建材の採用もこの時期に行われ。内装材の多くが置き換えられ、外壁の一部をタイル貼りに改修。
- 家族構成の変化に伴い 2 階建ての離れ家を増築。

■ 昭和 60 年（1985 年）：**築 115 年**
キッチン・水廻りを主に改修工事された。

■ 平成 16 年（2004 年）：**築 134 年**
大規模改修・修繕・増築工事を実施した。
- 建替えをも視野に入れた改築の計画。
建物の精密な調査と検討を経て、大規模改修・修復工事、増築工事を実施することで、後世へと引き継ぐ住まいを目指すこととした。
- 経年劣化に対応すると共に、現代の暮らしと安全性に適応させる**改修及び増築工事**。
- 過去の増改築、改修工事による不具を見直す**撤去・減築工事**。
- 過去に一端切り捨ててしまった良き住文化を取り戻すための**修復工事**。

変えたもの（安全性と現代の暮らし）

- 耐震性の確保（基礎新設を伴う耐震改修）
- 温熱環境の改善
- 夏の部屋と冬の部屋（増築工事）

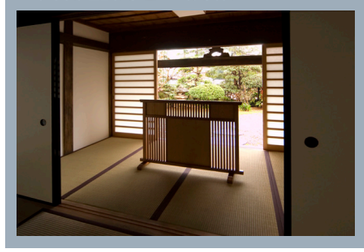
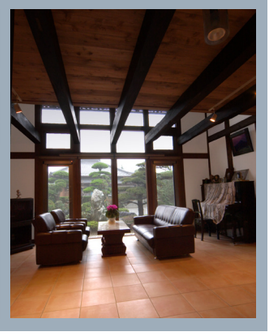
（改修前）

ジャッキアップによる基礎工事

土台補強 + 耐震改修工事

変えないもの（後世へ引き継ぐ為に）

- 後世の改修を考え、何時でも、誰でも、何処でも入手可能を前提に工法・構法・材料を継承した
- 15 畳の空間「座敷」

復活させたもの（住文化として）

- 「土間」のある生活
- 式台玄関
- 土壁 / 漆喰壁
- 外部空間との調和